

## はめてびっくり！魔法のボタン

### － ボタンはめにチャレンジ －



#### ○ねらい

- ・この教材教具をおもちゃのように使って学習することによって、手先を思ったように動かす練習が楽しくできるようにする。

#### ○教材・教具を使った実践例

- ・学校での個別学習（国語・数学）の時間に、手先が不器用な高等部1年生の生徒に使う。授業の導入の作業として、このボタンはめを行う。
- ・利点としては、手先に集中する教材であるため、国語数学の時間の導入としてこれを行うことにより、集中力を高めてから学習に移ることができる。
- ・配慮点としては、まずは大きなボタンから始め、次に小さなボタンで行うようにする。また、やりたいデザインから選んでやるようにする。
- ・留意点は、絵の向きによってマジックテープで貼り付ける位置が変わるので、貼り付けは指導者が行うことである。
- ・今後の改善点は、ボタンのはめる位置が分かりづらく戸惑うことがあるので、分かりやすく目立つ色の糸で印をつけておくこと。

#### 【材料】

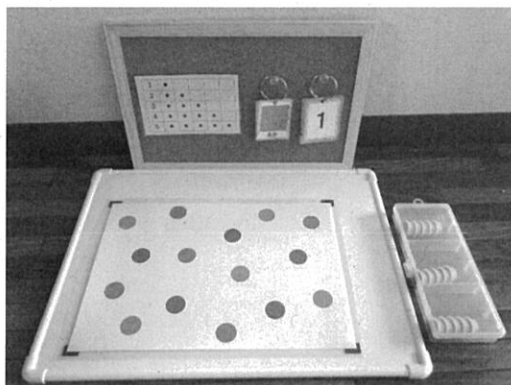
- ・フェルト×4（440円，100円ショップ）
- ・マジックテープ（110円，100円ショップ）
- ・ボタン×2（220円，100円ショップ）

#### 【制作方法】

- ①ボタンを2つ、布に縫い付ける。
- ②イラストを決め、フェルトを縫う。
- ③ボタンの位置に穴を開ける。
- ④固定したい位置にマジックテープを縫い付ける。

（障害児教育コース3年 植松 渚）

## カラフルぺったん — 数字と量のマッチング —



### ○ねらい

- ・この教材教具を、指定された色と数字の分だけマグネットを置いて学習することで、数字と量のマッチングと色のマッチングができるようにする。

### ○教材・教具を使った実践例

- ・課題学習の時間に、数字と量の理解が不十分である児童に用いる。
- ・教師が数字カードの1～5の中から1つと、色カードの赤青緑の中から1色を指定し、コルクボードの画びょうに吊るす。児童は、ホワイトボードの指定された色の丸に指定された数字の分だけ同じ色の磁石を置く。
- ・赤青緑のカラフルな色磁石を使ったり、磁石を置くという動作を伴ったりしながら学習することで、楽しい雰囲気や意欲的に取り組めるようにする。
- ・使う色を増やしたりパステルカラーにしたり、数字を増やしたりすることで難易度を上げ、同じ教材を長期的に使うことができる。また、色磁石をしまうケースの仕切りは取り外しができるので、仕切りを無くして色々な色の中から指定された色を選ぶことで難易度をあげることもできる。
- ・ホワイトボードとコルクボードを上下に置くことで、視線の動きを少なくして取り組みやすくなるようにする。
- ・コルクボードの画びょうをボンドでフックをつけるなどして固定できるように改良したい。

### 【材料】

- ・マグネット付ホワイトボード 38×28cm(220円, 100円ショップ)
- ・マグネットタックピース 200個(自宅にあったものを使用)
- ・手貼りラミネートフィルム, コルクボード片面 約20×30cm, カードリング 30mm, カラーシール中 875片, セパレートボックスロング, カラーマグネット(各110円, 100円ショップ)

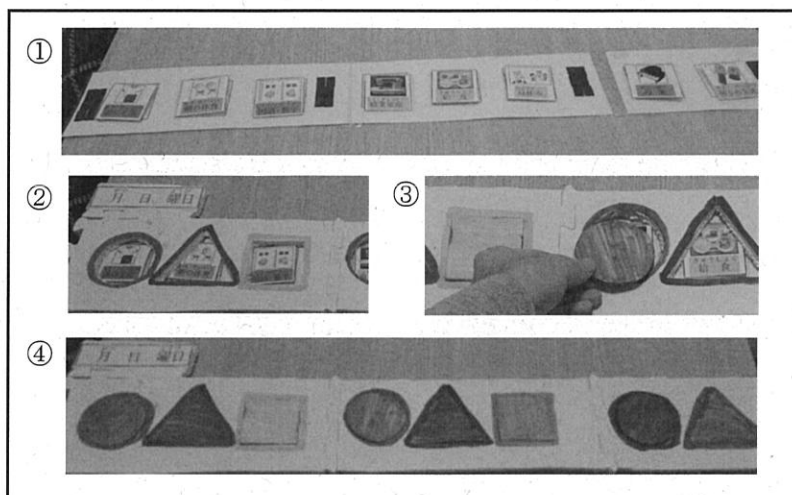
### 【制作方法】

- ・丸シート、数字と量の対応表、色カード、数字カードを作成し、できたシートやカードをラミネート加工する。
- ・色カードと数字カードに穴をあけ、それぞれカードリングでまとめる。
- ・数字と量の対応表をコルクボードに貼り、コルクボードに画びょうを2個刺し、色カードと数字カードのカードリングを吊るす。
- ・丸シートの裏にマグネットピースを貼り、ホワイトボードに貼る。
- ・カラーマグネットにカラーシールを貼り、セパレートボックスに色を分けて入れる。

(障害児教育コース3年 大出 千夏)

## 型はめ1日スケジュール

— 授業のおわりごとに、1つ入れよう —



### ○ねらい

- ・この教具により、一日の授業等のスケジュールを視覚化することができる。自分でカードを並べてスケジュールを完成させることで、その日の見通しをもつとともに、「主体的にその日の流れを堪忍している」という感覚を養う。
- ・終わった授業のカードを上から「型はめ」で隠れるようにする。こうすることで次の授業は何か、あといくつの授業が残っているのか等を実感しやすくするとともに、型はめによる「形の概念の学習」を学校生活の中に自然に溶け込ませるようにする。

### ○教材・教具を使った実践例

- ① 朝の登校時、その日の授業等のカードを貼ってスケジュールを完成させる。
- ② 型はめの枠板をその上に付ける。
- ③ 1つの授業が終わるごとに、その授業のカードの枠と「色」・「形」が対応する型を入れ、カードを隠す。次の授業（型を入れたところより1つ右にあるカード）を確認し、授業の準備をする。
- ④ その日の授業等が全て終わると同時に、その日のスケジュール上の型はめも全て終わる。

〈今後の改善点として〉

- ・ 学校生活においてのみでなく家での過ごし方等を選択できるカードを用意するなど、様々な場所や場面において「主体的にスケジュールを決める」ことをねらう。
- ・ 型はめの型の大きさや形をより多様にする。

#### 【材料】

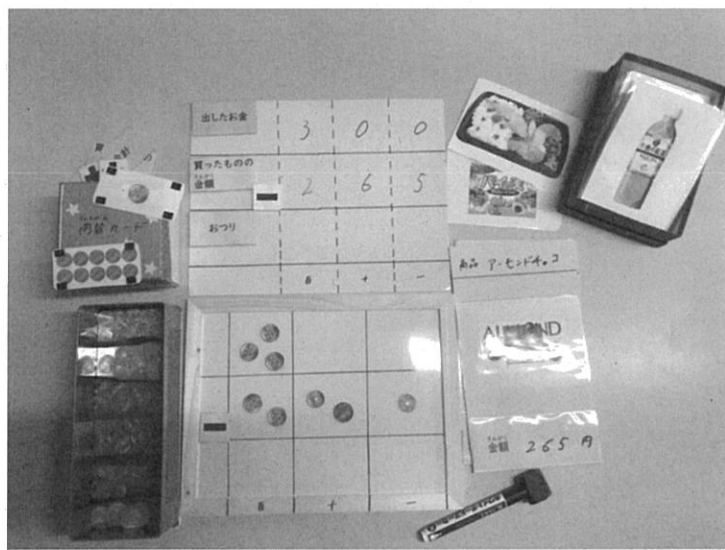
- ・ ラミネートフィルム（110円，100円ショップ）
- ・ ジョイントマット（110円，100円ショップ）
- ・ マグネットシート（110円，100円ショップ）
- ・ マジックテープ（110円，100円ショップ）

#### 【制作方法】

- ① スケジュールと授業カードをラミネートし、それぞれにマジックテープを貼る。
- ② 授業カードの大きさと対応させ、ジョイントマットを丸・三角・四角に切り抜く。
- ③ スケジュールとジョイントマットにマグネットシートを付ける。

## お金の計算をしよう

### － 合計・おつりをぴったり求めよう －



#### ○ねらい

- ・位をそろえて硬貨で計算し、筆算と見比べることによって、数字と硬貨を隔たりなく同じものとして認識できるようにする。
- ・買い物場面を想定した活動を通して、実際に買い物をするときのイメージをもてるようにする。

#### ○教材・教具を使った実践例

- ・教科学習の時間に、四則演算やお金の計算はできるが、数字と硬貨を同じものとして認識することが難しい生徒に使用する。
- ・お金の計算を、ボードを使って位をそろえて計算することで、筆算との比較をすることができる。
- ・足し算（合計）と引き算（おつり）が両方できるように視覚提示はマジックテープではがせるようにした。また、繰り上がり、繰り下がりを見視覚化するために両替カードを用意した。
- ・お金の背景が白だと視力が弱い生徒には見えにくいので、色のついたボードや両替カードのお金の背景に色を付けるとさらに見えやすくなるのではないかと考えた。
- ・今回は写真で商品やお金を作ったが、リアリティにかけてしまうので実際のお金や商品を使用して行うのもよい。

#### 【材料】

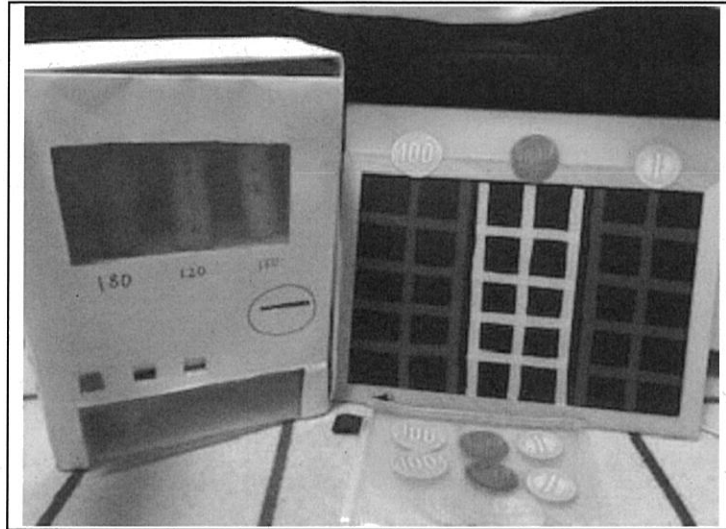
- ・ホワイトボード、ホワイトボードマーカー、マグネットタックピース、ホワイトボードシート、マジックテープ（各 110 円、100 円ショップにて購入）
- ・お金、商品の写真（インターネットからダウンロードし、A4 のコピー用紙に印刷）
- ・ラミネーター、ラミネートシート、お菓子の箱、画用紙、両面テープ、マジックペン（自宅にあったものを使用）

#### 【制作方法】

- ①お金、商品の写真を印刷し、ラミネートをして、切る。
- ②お金の裏にマグネットタックピースを貼る。
- ③商品の裏にマジックテープを貼る。
- ④おつり、金額などを word で制作し、印刷してラミネート加工をする。
- ⑤ホワイトボード、ホワイトボードシートにマジックペンで線を書く。

## お金を正しく数えて商品を買おう

— 自分で自動販売機で飲み物を買えるようになりたい! —



### ○ねらい

- ・この教材教具を本物の自動販売機に見立てて学習することによって、楽しみながら正しいお金の数え方、買い方がわかるようにする。

### ○教材・教具を使った実践例

- ・数学でお金の学習をする場面で、百の位の学習をしている生徒に楽しく学んでもらうために使う。
- ・百円玉、十円玉、一円玉の数を分けて数えることができるように、赤黄緑の3色で区切った。
- ・実際の生活場面に即した場面で学習することで、実践しやすいと考える。
- ・今後の改善点は、お金の大きさが3種類ともほぼ同じになってしまったので、実際のお金の大きさの比率に少しでも寄せることである。
- ・実際の自動販売機は商品選択ボタンが商品の真下にあるので、実際に自動販売機を利用するとき慌ててしまう可能性がある。サンプル商品の真下にボタンがあるデザインに改良したい。ばよかった。

#### 【材料】

- ・コルクボード (110円, 100円ショップ)
- ・透明ポーチ (110円, 100円ショップ)
- ・携帯シャンプー容器 (220円, 100円ショップ)

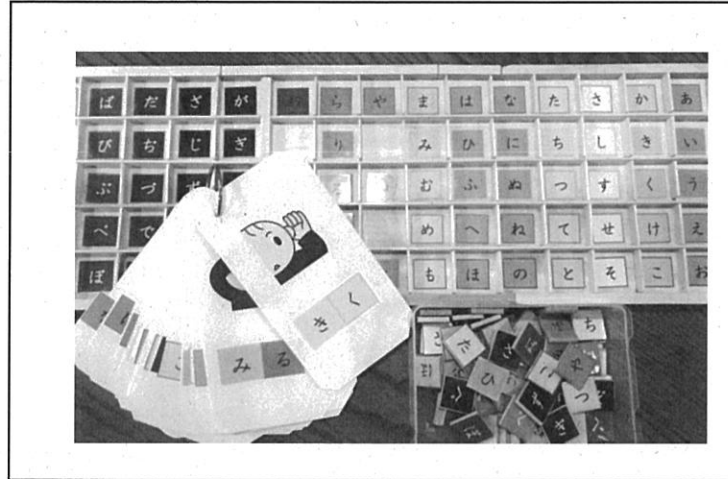
#### 【制作方法】

- ・箱の正面のみをドア式にし、ボタン、商品の出口などの穴をあける。
- ・商品を作り、見える選択肢用と出てくる用にセットする。
- ・外側に白の画用紙を貼る。
- ・3種のお金を同じ種類ごとに数えられるように、色分けしてボードを作る。

(障害児教育コース3年 棚田 朱音)

## うごきのことば名人

## － 身近な動詞, ことばの学習, ひらがな －



## ○ねらい

- ・絵カードを見てイラストの動きを単語で発したり, ひらがなブロックを並べて, 単語を作ったりする学習を通して, 動きを表す単語を正しく理解できるようにする。

## ○教材・教具を使った実践例

- ・課題学習などの個別学習の時間で, ひらがなの学習がまだ定着していない児童生徒を対象に, 絵カードを示し, 単語を発したり, ひらがなブロックで単語を作ったりといった練習を行うことで, 音声と文字の両方の認知が高められる。
- ・教材の利点としては, ひらがなブロックの色を行ごと, 列ごとに分けたため, 視覚的に系統性を持ちながら学習できることが挙げられる。また, 清音はカラーで分類し, 濁音・半濁音は黒で分類したため, 濁音・半濁音が未学習の児童生徒が, 清音と区別しながら学べるのではないかと考えた。
- ・教材の使用にあたっては, 絵カードを, はじめは「絵と文字(ひらがなブロックと同じ色のついたもの)」, 次に「絵と文字(色のついていないもの)」, そして「絵のみ」と, 児童生徒の実態に応じて変えていくことで, 段階的に学習が進められる。
- ・今後の改善点としては, 絵カードを置き, ひらがなブロックを並べるための枠のある教材を加えた方が, 学習場面でより効果的になるのではないかと考える。また, 視覚的に色のない教材の方が扱いやすい児童生徒の場合には, 色のないものに変える必要がある。

## 【材料】

- ・木材(約600円, ホームセンター)
- ・木材(約300円, ホームセンター)
- ・タイル25mm×25mm(ホームセンター)
- ・ラミネート紙(100円, 100円ショップ)

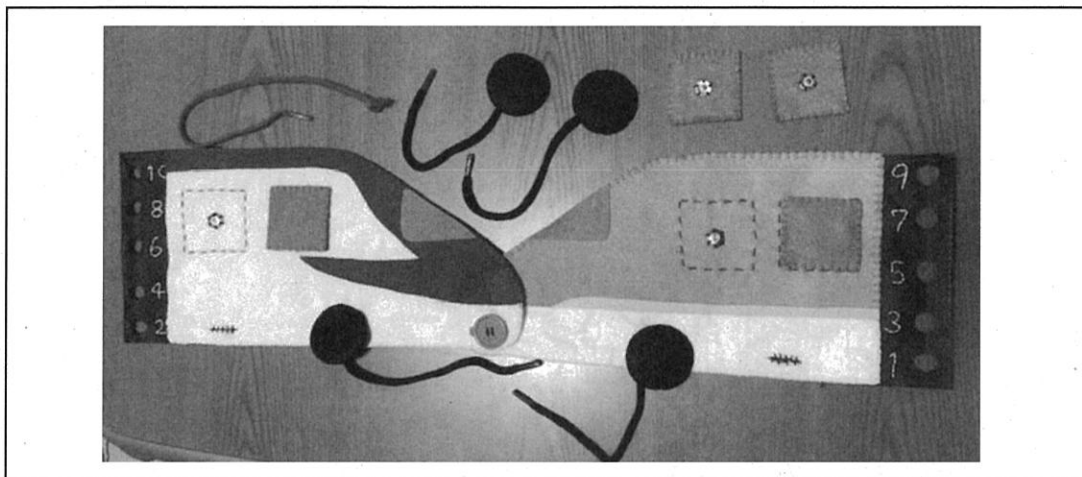
## 【制作方法】

- ・『ひらがなブロック』木材を切り木工用ボンドで組み立て, ひらがなを印刷したものを貼り付ける。タイルにも同様にひらがなを印刷したものを貼り付ける。
- ・『絵カード』動詞のイラストを印刷し, ひらがなブロックと同じ色で組み合わせた単語を貼り付け, ラミネートする。



## わくわく新幹線

— はやぶさ・こまち、連結！！ —



### ○ねらい

- ・この教材で、新幹線の完成と連結をすることによって、手指の巧緻性を高めることや、1～10までの数を理解することができるようにする。

### ○教材・教具を使った実践例

- ・課題学習の時間に、ボタンをつけることや紐を扱うことが難しい児童に対して使用する。この教材を使うことで、スナップボタンや4つ穴ボタンをつけることができるようになったり、紐の扱いに慣れ、巾着袋の口を締めることや靴ひもを結ぶことができるようになったりすると考える。
- ・教材の利点は、新幹線が好きな児童や、数を数えることが好きな児童にとっては、完成や連結をさせたいという思いから、楽しみながら取り組むことができる点である。使用に当たっての留意点は、連結させる時にボタンでつなげるか、紐通し課題でつなげるかということを見守る児童の実態に合わせて行っていく点である。
- ・今後は、新幹線の種類を増やすことで活動への意欲を高めていきたい。また、ボタンをつけることや紐を扱うことに慣れてきたら、窓やタイヤの取り付け方、連結の仕方を他の方法に変更し、日常生活においてできることを増やしていきたい。改善点は、紐を通す穴が小さかったり少し扱いにくくなってしまったりしたので、用いる素材や大きさなどについて検討する必要があるといえる。

#### 【材料】

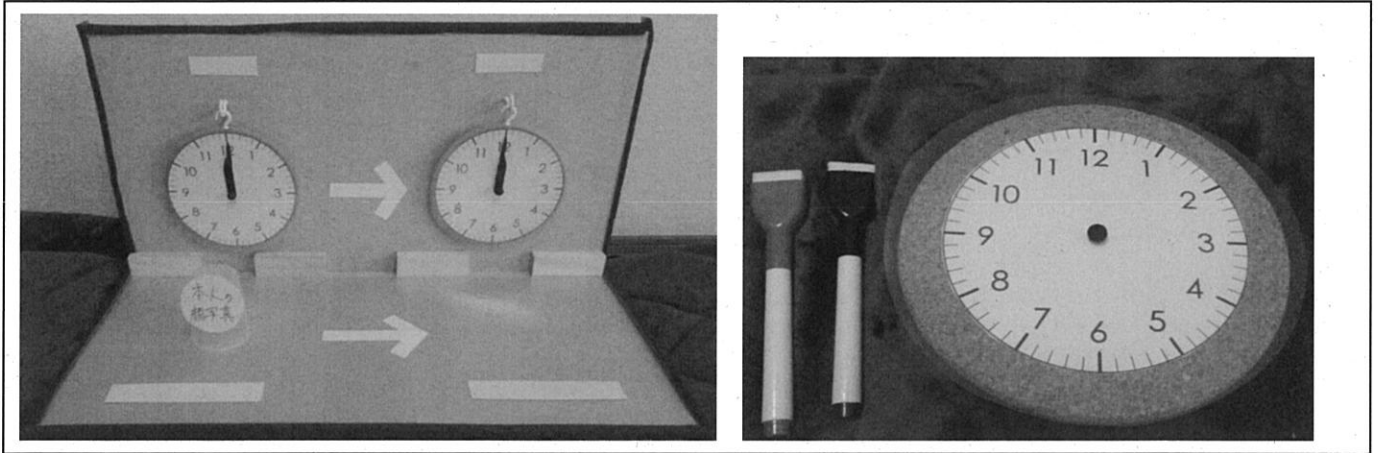
- ・フェルト、スナップボタン、ひも、不織布、刺しゅう糸（110円、100円ショップ）
- ・牛乳パック、セロハンテープ、4つ穴ボタン

#### 【制作方法】

- ①型に合わせて、フェルトや牛乳パック、不織布を切る。
- ②ボタンや紐を縫いつける。
- ③不織布に穴を開け、数字を縫う。
- ④窓枠や4つ穴ボタンのボタンホールを作る。
- ⑤フェルトを縫い合わせる。

## どのくらい時間がたったかな？

－ 時間のけいかを、時計をつかってあらわそう －



### ○ねらい

- ・ 2つの時計を別の場所でそれぞれ時刻を合わせ、最後に組み合わせて学習することによって、時間の経過を理解できるようにする。

### ○教材・教具を使った実践例

- ・ 課題学習の時間に教室等において、時計を読むことはできるが時間の経過の理解に困難を示す児童に対して、時間の経過の概念を伸ばそうとする際に、本教材を使用する。
- ・ 児童生徒は2つの場所で、それぞれ自分自身で2つの時計の時刻を合わせ、自分の人形に見立てて、人形を動かしながら、自身の行動と時刻を振り返り、時間の経過を視覚的に理解することができる。
- ・ 本教材のおすすめのポイントは、2つの場所でそれぞれ2つの時計で時刻を自分自身で合わせているため、時間が経過したことを実感しやすいところである。
- ・ バスや電車などの具体物を用いれば、「～への行き方（公共交通機関を使って）」等の学習にも使える為、具体物のバリエーションを増やしていくことが今後の課題である。

#### 【材料】

- ・ 木の板2枚（220円、ダイソーにて購入）
- ・ 角材、鍋敷き2枚、押しピン、ラインテープ、フック、厚紙、画用紙（灰色）、木工用ボンド、セロハンテープ、マッキー（黒）（各110円、100円ショップにて購入）
- ・ すきまテープ、ホワイトボードシート、ホワイトボードマーカー、A4クリアフォルダー（各110円、100円ショップにて購入）

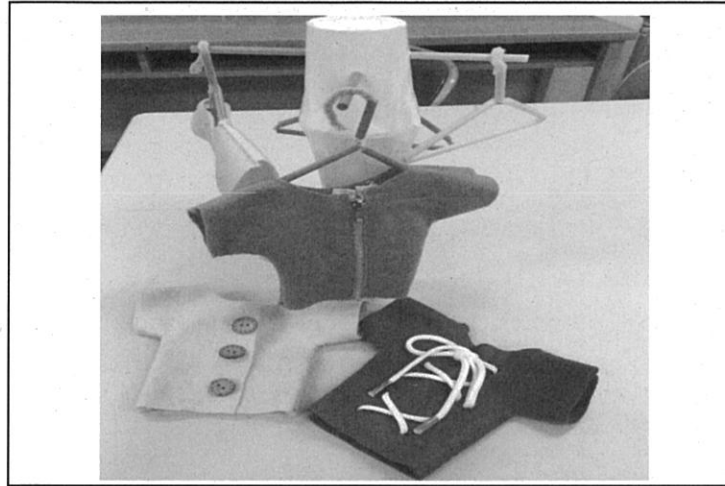
#### 【制作方法】

- ・ 時計：鍋敷きに時計のイラストを貼り付け、厚紙で作った時計の針と丸く切ったクリアファイルを押しピンでとめる。上にはフックをつける。
- ・ 台：木の板にラインテープやホワイトボードシート、フックをつける。木の淵の部分にはすきまテープを貼る。直角に板が立つようにして角材を木工用ボンドで取り付ける。



## カラフルちびTシャツ

## — 指先の運動と色の識別 —



## ○ねらい

- ・衣服の着脱を主とした手先の細かい運動が必要となる日常生活場面を想定し、ボタン留めや紐結び、ファスナーの開け閉めなどの手先の巧緻性を高めることができるようにする。
- ・Tシャツ・ハンガー・かける場所の色を一致させ、番号を振ることで、色の識別と順序の理解を深めることができるようにする。

## ○教材・教具を使った実践例

- ・日常生活の中で、衣服や靴の着脱・ゴミ袋を縛る、バックのファスナーの開閉など手先の細かい動作に困難を示す児童生徒に使用する。
- ・材料にフェルトを用いることで、子どもが自分から手に取ってみたいくなるような手触りを重視した。
- ・番号をつけ、最後の4番のポケットの中にシールを入れておくことで、できたらシールがもらえるという「終わり」が分かるようにする。
- ・実際の生活場面で、ハンガーにかかっている衣服をとる・脱いだものをハンガーにかけるということが般化されるよう、始まりと終わりの流れを理解できるような指導を心掛ける。
- ・紐結びに関しては、できるようになったら紐先のテープをとり、紐通しから行うなどレベルを上げていく。
- ・今回はTシャツのみであったが、ズボンや靴やバック、また実際に着せるための人形を用意すれば、より活動に達成感をもたせることができるのではないかと感じた。

## 【材料】

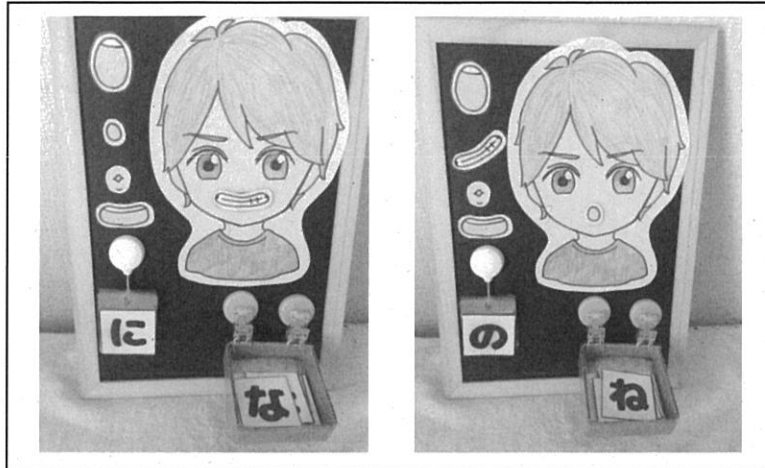
- ・ボタン・ファスナー・紐・手縫い糸 (各 110 円, 100 円ショップ)
- (紙コップ・ビニールテープ・フェルト・竹串・ボンド・ストロー・モール・折り紙・ペンは自宅にあるものを使用。)

## 【制作方法】

- ①フェルトでTシャツの型を作り、ボタン、ファスナー、紐結び(紐通し)それぞれの材料を縫い付ける。
- ②ミニハンガーはストローとモールを用い、モール同士の接合部分はストローを通して安全面に配慮する。
- ③ハンガー掛けは紙コップを4つ重ねて高さを出し、上部に竹串で穴をあけ、4カ所に各色のストローを接着し安全面に配慮する。

## 大きな声で「あ、い、う、え、お」

－ 口の形を意識しよう －



### ○ねらい

- ・発音時の口の形をイラストに貼る学習をすることによって、それぞれの文字を発音する時の口の形が視覚的にわかるようにする。
- ・自分で口の形を考えながらイラストを貼ることで、それぞれの口の形を意識できるようにする。

### ○教材・教具を使った実践例

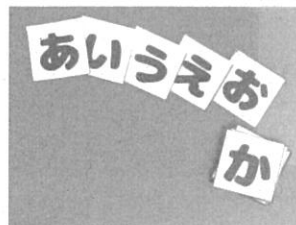
- ・課題学習(国語科)の時間に、口の周りの筋肉が未発達であるため発音が不明瞭である生徒に対して、楽しみながら口の形を意識できるようにパズル感覚で使ったところ、授業内では勿論、日常生活の中でも口の形を意識して話すようになった。
- ・この教材の利点は、パズル感覚で取り組むことが出来るため、楽しみながら授業ができることである。
- ・今後の改善点では、単語の発音もできるようにするという点である。今の段階では一つの文字しか口の形を確認できないので、単語での口の形も確認できるようにしたい。

#### 【材料】

- ・梱包テープ (228円, 山梨大学生生活協同組合)
- ・ブラックボード (110円, 100円ショップ)
- ・磁石 (110円, 100円ショップ)

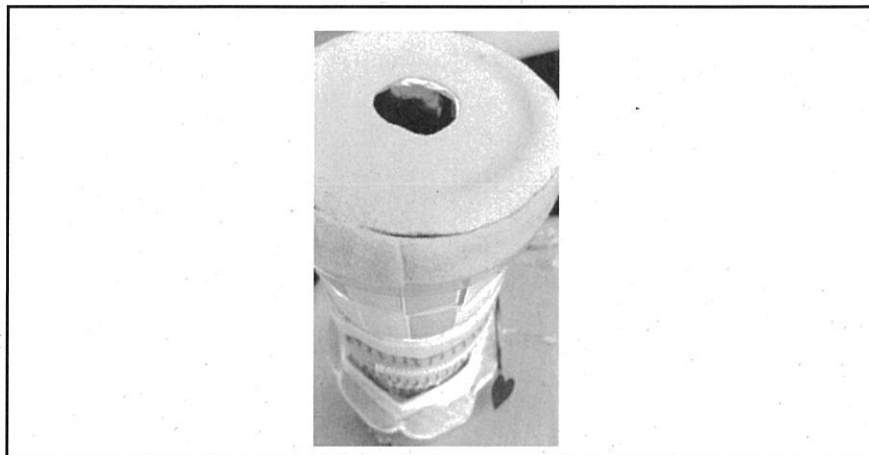
#### 【制作方法】

- ①絵を描く      ②ひらがなカードを作成      ③カード入れを作成      ④ブラックボードに貼る



## 見て触って楽しむ万華鏡

－ 目と耳と手を動かして遊ぼう！ －



### ○ねらい

- ・ この教材教具を見たり触ったりして学習することによって、さまざまな触覚や手の動かし方があることを知る。
- ・ ものを動かすことによって見える景色が変わることが分かる。

### ○教材・教具を使った実践例

- ・ 自立活動の場面で手の力の弱い幼児や児童に両手で回したり，触ったり，見たりなどそれぞれ独立してやる。段階を踏んで回しながら見るなどといった手と目の協応が図れるようにする。
- ・ 万華鏡の持ち手の部分にタイルの凹凸やストーンシールのボツボツ感，フェルト生地の手触りなど持つ部分によって違った感触が味わえることと万華鏡としての使い方だけではなく，ファスナーを取り付けることで手の巧緻性を高める練習もできるようにした。
- ・ 万華鏡を振ることで音も味わうことができるようにした。
- ・ 万華鏡を持つ力がない児童でも使用出来るように土台となるものを製作し，覗いても暗くて何も見えないということがないようにライトで下から照らすつくりにした。
- ・ 土台の方が少し重く，動きやすくなってしまった。

### 【材料】

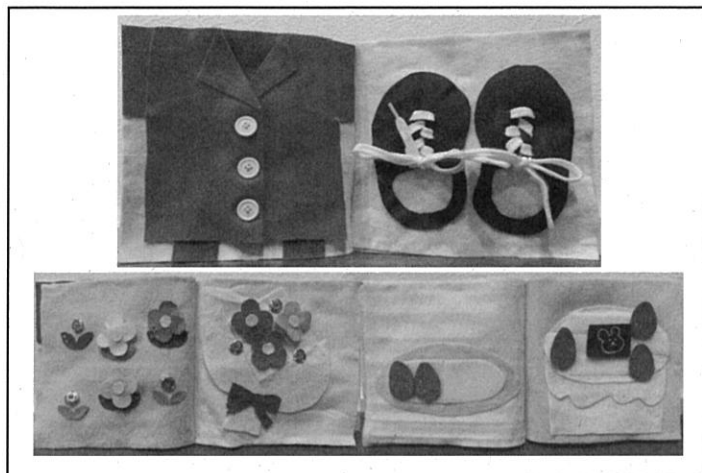
・ カラータイルシール (110円, 100円ショップ) ・ ラインストーン(110円, 100円ショップ)  
 ・ 刺繍糸(110円, 100円ショップ) ・ ガラスペイント(110円, 100円ショップ) ・ プラバン(家にあった物使用) ・ 単三電池(110円, 100円ショップ) ・ アルミクリーンシート(110円, 100円ショップ) ・ エブリパック深型(110円, 100円ショップ) ・ クラックビーズ(110円, 100円ショップ)×2 ・ カラーファスナー(110円, 100円ショップ) ・ ストリングライト(110円, 100円ショップ) ・ フェルト生地(110円, 100円ショップ) ・ マスキングテープ(110円, 100円ショップ) ・ ガムテープ(家にあった物使用)

### 【制作方法】

①容器にビーズ入れ，プラバンを容器に入るようにきり，ふたをする。②容器の内側をガラスペイントで黒く塗る③アルミクリーンシートで表が内側になるように3枚を合わせて容器に入れ固定する。④蓋をくりぬきのぞき穴を作る。④容器のサイズに合うようにフェルトを切り，ファスナーを縫い付ける。タイル等も貼っていく。⑤万華鏡を置く土台をつくる。

## 知育布絵本

— 留めて、結んで、できるかな? —



### ○ねらい

- ・布絵本を使い楽しみながら、靴ひもの結び方やボタン掛けなど日常生活に必要な動作を学ぶことができる。
- ・文字がないことから児童生徒が自由な発想で絵本のストーリーを進めることができ、豊かな想像力や言語で表現する力を養うことが期待できる。

### ○教材・教具を使った実践例

- ・余暇などの時間に絵本として楽しみながら、靴ひもの結び方やボタン掛け等の日常生活の中で必要となる技能を身につけていく。
- ・児童生徒の世界観を大切に、援助や声かけは必要な時だけ行うようにする。
- ・今後の改善点・・・壊れやすい箇所、生地が薄い箇所の補強

#### 【材料】

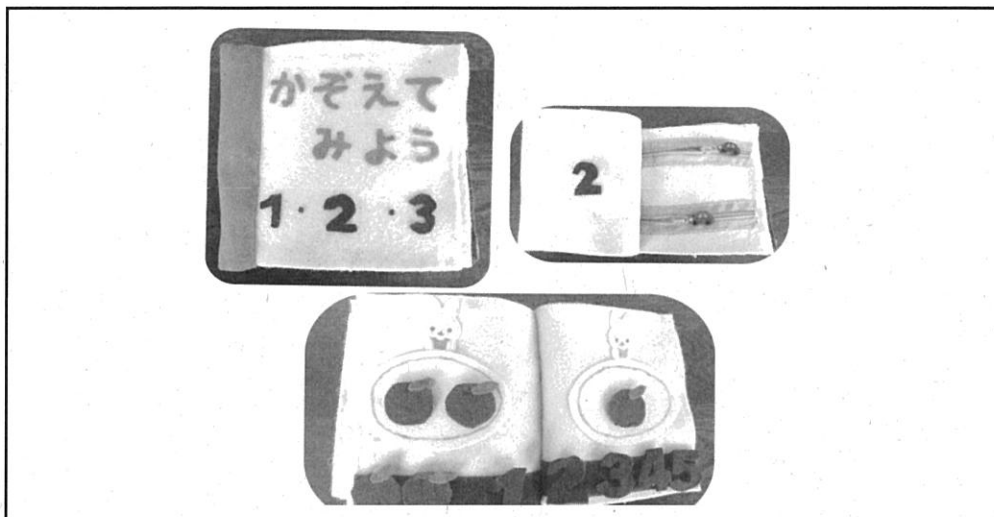
- ・フェルト（計 770 円，100 円ショップ）・ボタン（110 円，100 円ショップ）
- ・靴ひも（110 円，100 円ショップ）・目玉ボタン（計 220 円，100 円ショップ）
- ・マジカルテープ（計 220 円，100 円ショップ）・スナップ（計 220 円，100 円ショップ）

#### 【制作方法】

- ・台紙となるフェルト（縦 20×横 22 センチメートル）表紙・裏表紙・ページ数分用意する（本教材では表紙・裏表紙・ページ数 8 ページなので計 10 枚用意した）。
- ・イラストは 20×20 以内に収め、横 2 センチメートルは冊子として綴じる際の余白とする。イラストを作成する際、余白は必ず内側にくるよう注意する。
- ・各ページが完成したら表紙と 1 ページ目，2 ページ目と 3 ページ目・・・といったように背面を合わせて縫い合わせる。（本教材はホットボンドで接着した）
- ・表紙から裏表紙まで順番通りに並べ、余白の 2 センチメートルを仮縫いする。
- ・背表紙となるフェルト（縦 20×横 6 センチメートル）を用意し、縫い付ける。縫い始めと縫い終わりは本返し縫いで縫う。

## 数字の絵本

- かぞえてみよう 1・2・3 -



## ○ねらい

- ・指先を使って遊びながら数の概念を身につける。
- ・実生活で使用するファスナー、マジックテープ、ボタンの使い方を遊びながら習得することができる。

## ○教材・教具を使った実践例

- ・数概念の理解をこれから習得する子どもに、日常生活の中や算数の時間で使用する。
- ・子どもが興味を引くようなデザインや仕掛けで、楽しみながら数概念の学習をする。
- ・課題は、作成に手間と時間がかかることである。改善点は、魚のパーツが動かしづらいため、動かしやすいように、小さいパーツを子どもの実態に合わせて使いやすいサイズにすることである。

## 【材料】

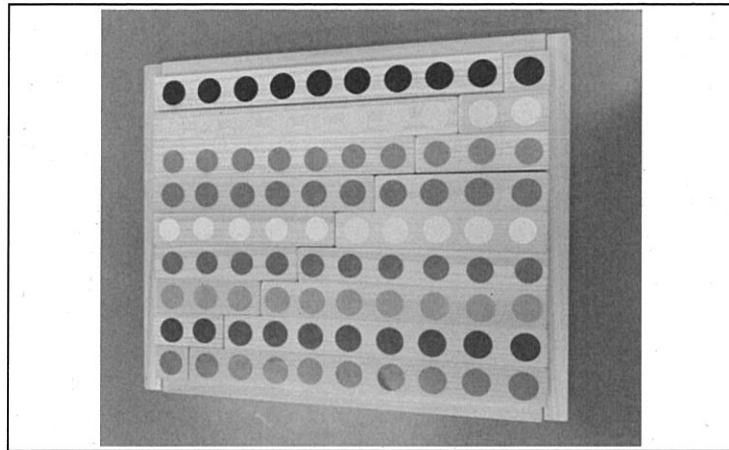
- ・フェルト 3 枚入×2 (各 110 円, 100 円ショップ)
- ・フェルト 5 色, ボタン 3 個 (自宅にあったものを使用)
- ・マジカルテープ 2 個 (各 110 円, 100 円ショップ)
- ・ループエンド 3 個 (各 110 円, 100 円ショップ)
- ・カラーヒモ中 (110 円, 100 円ショップ)
- ・ボタン (110 円, 100 円ショップ)
- ・ワッペン 2 個 (各 110 円, 100 円ショップ)
- ・ファスナー (110 円, 100 円ショップ)
- ・毛糸 (110 円, 100 円ショップ)

## 【制作方法】

- ① フェルトを本のページ数分カットする。その他パーツもカットする。
- ② フェルトの本にマジカルテープ、ファスナー、ボタンを付ける。カラーヒモ中にループエンドを通し縫い付ける。
- ③ フェルトの本に①でカットしたパーツを貼り合わせる。

## 木製パズル

— 10のかたまりをつくろう！！ —



## ○ねらい

- ・この教材教具をパズルのように使って学習することによって、10のかたまりが分かるようにする。

## ○教材・教具を使った実践例

- ・小学1年生の算数の授業（数概念）で、木のブロックを組み合わせて木枠に入れることで、10のかたまりはどんな数が集まってできているのかを理解できるようにする。
- ・同じ色のシールがついたブロックを組み合わせれば10のかたまりが自然にできるため、始めは色を手がかりに取り組みようとする。シールを貼った状態で十分にできるようになったら、シールをはがしての取り組みに移行する。
- ・児童の興味関心や課題の変化に合わせて、色々なジャンルのシールに変えて使うことができる。
- ・隙間なくブロックが埋まることで触感を使つての刺激が活用できる。
- ・耐久性とフィット感を重視し木製とした。
- ・作成の材料費の削減と作成時間の短縮が今後の課題。

## 【材料】

- ・木材 1200×30×30 mm 2本 1200×15×15 mm 1本 木板1枚（約2200円、ホームセンター）
- ・木材カット料（300円）
- ・木材用ヤスリ 60 2枚（120円、ホームセンター）
- ・カラーラベル直径16mm 赤・青・オレンジ・黄色・緑・白・水色（自宅にあったもの）
- ・木工用ボンド、釘（自宅にあったもの）

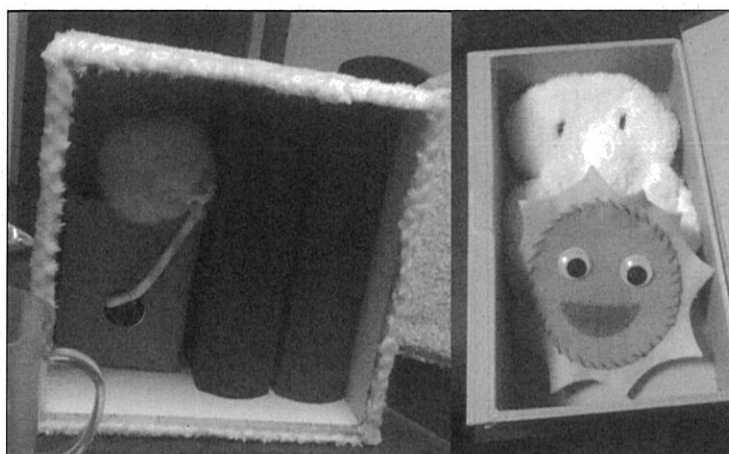
## 【制作方法】

- ①木材をホームセンターでカットしてもらう
- ②木材の断片を木材用ヤスリ（粒子が粗いもの：60）で削る
- ③木材をボンドで仮止めし、乾いたら釘で打ち組み立てて木枠をつくる
- ④木のブロックにカラーラベルを貼る



## わくわく ほんだな

－ 楽しく見通しを立てて、レッツ概念問題！ －



## ○ねらい

- ・活動の流れをイメージしやすくするための引き出し課題は、見通しがもてる反面、無機質な印象を受ける。そこで、本棚の本を手に取り、開くイメージで、より自ら課題に取り組む主体性を育めるようにする。
- ・児童の実態は日々変化するため、中の課題を入れ替えることによって実態の変化に対応できるつくりにした。
- ・手触りをパーツごとに変えることによって、課題に触れること自体を楽しめるようにした。
- ・多様な障害特性に対応させ、児童生徒が取り組むことができるようにするねらいがある。そこで、手の開閉ができれば取り組むことができる概念問題を3つ用意した。長い・短い、大きい・小さい、温かい・冷たい、の三種類の日常生活にかかわる概念問題を学習できるようにする。

## ○教材・教具を使った実践例

- ・課題学習・・・中に入っている「ミッションカード」を元に、概念問題に取り組む。達成したら、次の課題に移行する。
- ・ポンポンが口に含みやすいサイズであること。外装の繊維が取れやすいことが今後の課題である。

## 【材料】

- ・紙BOX（正方形、フレンチ） ・紙BOXブック型 ・貼れる布（ベルベット・茶・灰）
  - ・リボンリボン（4色） ・はぎれカノコボア ・ふわふわホワイトフェイスタオル
  - ・ストライプコード（イエロー・ピンク） ・フェルト5枚入り ・目玉シール 黒 円形
  - ・あったかカイロミニ8個入り ・紙製雑貨アソート9点セット ・キーホルダー（チェーン付き）
- （以上全てダイソーにて購入） ・保冷剤（自宅のものを使用） 計¥2970

## 【制作方法】

①紙BOX外面にはぎれカノコボアを貼る②紙BOXブック型外面に貼れる布を貼る③紙製雑貨アソート底に段ボールで蓋をし、外面に貼れる布を貼る④リボンリボンを使ってポンポンを作成⑤キーホルダー（チェーン付き）をストライプコードに結び、③底面に固定⑥フェルト（4色）とふわふわフェイスタオルを使い、太陽と雪だるまを作成。

【太陽】ティッシュカバーの応用で作成。目は目玉シール、他はフェルトで作成。

【雪だるま】下部に保冷材の出し入れが可能な穴を作成。目は刺繍糸で作成。



（特別支援教育特別専攻科Aコース 米谷 文直）

## あ と が き

「教材・教具アイデア集」第11集が発行の運びとなりました。これは本校の職員と山梨大学教育学部障害児教育コースの学生が、子どもたちのよりよい学びを目指して考案し、授業実践を経て改良を重ねて作りあげた教材・教具を紹介するものです。

特別支援教育に関わる先生方や教員を目指す学生たちの一助となることを願って編集しました。目の前の子どもたちの実態に合わせて工夫しながら、多くの方に活用していただければ幸いです。

山梨大学教育学部附属特別支援学校  
副校長 近藤 健一

### 学校の授業や支援に使える **教材・教具アイデア集**

第11集  
2019年12月発行

---

編 集 : 山梨大学教育学部附属特別支援学校  
教材教具集編集委員会

〔編集委員〕

編集委員長	小畑文也
副委員長	近藤健一
事務局	浅川公子
委員	波多野浩史
委員	前島美香
委員	武藤宏子
委員	村田浩樹

〒400-0006 山梨県甲府市天神町 17-35  
TEL 055-220-8282 FAX 055-220-8322

---

協 力 : 山梨大学教育学部障害児教育コース

〒400-0006 山梨県甲府市武田 4-4-37  
TEL&FAX 055-220-8237